

＜株式会社エフエム東京 第 530 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 8 年 7 月 7 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長

佐々木 俊尚 委員

松田 紀子 委員

山口 真由 委員

柴崎 友香 委員

福里 真一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（5 名）

唐島 夏生 代表取締役社長執行役員

内藤 博志 取締役執行役員コンテンツ事業局長

宮野 潤一 執行役員総合プロデュース局長

砂井 博文 総合プロデュース局コンテンツ・プロデュース部長

西森 郁馬 総合プロデュース局業務管理部長

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 宮野放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（60 分）

『馬淵・渡辺の#ビジトピ』

2026 年 6 月 7 日（日） 6:00～7:00 TOKYO FM

《議事内容》

議題 1：最近の活動について

■2026 年 6 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2026 年 6 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査(2026 年 6 月 1 日～7 日)において、以下の結果となりました。TOKYO FM は、コアターゲット区分(男女 18～49 歳)で在京同率首位、個人全体区分(男女 12～69 歳)及び、男女 12～59 歳で単独首位を獲得しました。

- ・ 男女 18～49 歳 : 在京首位 (同率) ※ニッポン放送と同率
- ・ 男女 12～59 歳 : 在京首位 (単独)
- ・ 男女 12～69 歳 : 在京首位 (単独)

今回の調査ではコアターゲットほか主要 3 カテゴリすべてで在京首位を獲得することができました。前回に続き、【30 代男女】、【40 代男女】、【50 代男女】の各年代でも在京首位を獲得、特に【30 代女性】、【50 代男性】層のスコアが前回比で大きく伸ばせており、個人全体区分では当社のみ前回から 1 ポイント UP して今回単独トップとなりました。

次回 8 月度調査においても、引き続きコアターゲットとのエンゲージメントを盤石化しながら、聴取率向上を維持してまいります。

■7月からの主な新番組・リニューアル番組

・新番組『AXA presents あしたはいい天気』

初回放送：7月4日（土）

放送日時：毎週土曜日 15:00～15:25

放送局：TOKYO FMをはじめ JFN38 局ネット

出演：YOU

提供：AXA（アクサ）



FM ラジオでは初のレギュラー番組出演となる YOU が「人生の転機」をテーマにリスナーからのメッセージにこたえていく番組です。

・新番組『岸谷蘭丸の丸くおさまらない話』

初回放送：7月4日（土）

放送日時：毎週土曜日 24:00～24:30

放送局：TOKYO FM

出演：岸谷蘭丸

提供：アサヒ飲料、BS11



Z 世代の論客として注目される岸谷蘭丸が、リスナーの日常の些細なモヤモヤや割り切れない感情に等身大で寄り添います。

・リニューアル『JET STREAM』

初回放送：7月6日（月）

放送日時：毎週月～金曜日 24:00～24:55

放送局：TOKYO FMをはじめ JFN38 局ネット

出演：福山雅治、ホラン千秋

提供：日本航空



現“機長”の福山雅治に加え、新たに“キャビンアテンダント”としてホラン千秋が就任し、番組初となる2名体制での放送がスタートしました。来年の放送60周年イヤーに向け、豪華タッグがお届けする新たな“夜間飛行”にどうぞご期待ください。

議題 2：番組視聴

『馬淵・渡辺の#ビジトピ』

2026 年 6 月 7 日（日） 6:00～7:00 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、毎週日曜日朝 6 時から 7 時に生放送中の『#ビジトピ』の 6 月 7 日（日）の放送回です。この番組は、2022 年 6 月にスタートし 5 年目を迎えました。番組 MC の経済アナリスト・馬淵磨理子と、流通アナリスト・渡辺広明が、ビジネスとお金が「わかる人」になれる！をテーマに、「ビジネスのヒントになる」「商談の雑談ネタになる」また「マーケティング用語 金融用語の学びになる」といった視点でビジネストピックスをお届けしています。前半は、一週間の注目ニュースや知っておくべきビジネスのトレンドを多角的に紐解いていく構成で、後半は政治・経済などの各界から多彩な専門家やキーパーソンをお招きし、ラジオならではの距離感で最先端ビジネスの裏側や、日本の未来を左右する社会構造の変革などについて深く掘り下げています。

6 月 7 日の放送回は、前半では一週間のビジネストピックス「消費税 1%案で外食に支援策」「6 月利上げ観測が強まる」「家電量販の巨大連合誕生」を解説。後半は北陸先端科学技術大学院大学の客員教授であり、AI 研究の若きトップランナーである今井翔太氏をゲストにお迎えしました。昨今、驚異的な能力とそれに伴うリスクで世界中の注目を集めている最先端 AI がもたらす社会的インパクトやサイバーセキュリティの脅威、さらには「AI と人間の雇用の未来」という避けては通れないテーマについて、研究者ならではのリアルな視点から語って頂きました。



【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○前半は経済のトピックスについて、後半はゲストとあるテーマについて深掘りということで 1 時間の中に凝縮されてまとまった番組構成だと思う。前半は経済のトピックスについて短い時間で解説すると、どうしても、もうすでにある状況や、大体こうなるだろうという状況について対処的な話になりがちだと思う。YouTube などでも経済ニュースの解説番組が最近すごく多いが、大体似たような印象になりがちなので、この番組を聴いていても少しそういう感じがした。しかし、日曜の朝の番組で、話題を提供するとなると、こういう感じなのかなとも思う。後半のゲストのインタビューの方がそのテーマに詳しい人ならでは視点が聞けて充実している感じがした。

○馬渕さんは、落ち着いた声のトーンなのがすごくいいなと思った。しかし、読み間違いや詰まってしまうところが多いところ少し気になった。経済アナリストということで話すのが本職ではないというのもあるかとは思ったが、番組がスタートして 5 年目ということなので、そこら辺はもうちょっと慣れないのかと思う。そして、渡辺さんは、軽妙な喋り方というか、すごくラジオで喋り慣れてるような感じがしたので、その差がかえって気になってしまうところがあった。特に番組の中に MC の人が話題っぽく CM をやる箇所があって、これはこの番組だけではなく大体どの番組でも気になると思う。馬渕さんと渡辺さんの喋り方の違いが気になって、もともと番組中にこういう CM 的な部分を入れてくるところは、不自然になりがちだと思うが、そこが一層、引っかかりを感じてしまった。

○馬渕さんと渡辺さんの話のバランスは割と良いとは思ったが、少し馬渕さんの方が聞き役っぽい感じになりがちなのかなと思うところがあった。渡辺さんの方が割とゲストの話にもどんどん聞き返し、尋ね返して行って、自分の知ってる話題をどんどん入れていく感じがして、馬渕さんの方は「なるほど」みたいな感じになりがちだという気がした。

○今、知りたい話がいろいろとダイジェストにまとまっていて、二人の慣れたテンポやトーンは、すごく聴きやすかった。サムネイルからするとちょっと硬い感じの番組なのかなと予想していたが、二人の仲の良さというか距離感が非常に聴きやすい感じで、馬渕さんが若干ミスするみたいなことはあったが、それはプロじゃないから仕方ないと思いながら、私はあんまり気にならなかったレベルだと思います。

○前半は、新聞などに載ってる話でもあるし、ニュースとかでも流れている話はあるが、後半の AI の話がすごく興味深くて、思わず色々とメモを取った。これは

面白いからもうちょっと聴いてみたいと思えるような単語がたくさん出てきた。今、改めて番組紹介を読むとビジネストレンド、ビジネストピックス、商談の雑談ネタになるみたいなことが書いてあるので、確かにその通りの聴き方を私はしてしまったと思って、なるほどと思った。

○AI のことを語られた今井さんが、人が言うことに関して被り気味に「それはね。」と言う感じで少し興奮されていらっしゃるのかなと思ったが、その話がすごく面白くて、とても分かりやすく、いろいろな方向から最新の AI の話をしていただいて、中国の脅威だったり、シンギュラリティの話「ギュられる」みたいな言葉、AI が台頭してきてドキドキしているけど、逆にシニア層は有利なのではないかみたいな勇気付けられる話だったりとか、日本は中間管理職のホワイトカラーで持ってきたから、そこがやられちゃうと危ういみたいな話をされてたと思うが、私は、実はそこが 1 番響いて、ここが AI にやられちゃうと確かに日本の経済がもっとガタ落ちするんだらうみたいな不安を漠然と思っていたので、その話をもっと聴きたいと思ったのですが、意外に流されてしまって、そういうところの拾いや活達、意見ではないがやり取りみたいなことを、もうちょっと深掘りして聴きたいと思うところが 2・3 箇所あった。相対的に非常に聴きやすかったし、すごく勉強になった。ラジオ学習みたいな側面が自分の中に残ったので、日曜の朝 6 時からオンタイムには聴けないと思ったが、ポッドキャストや radiko で、今後しっかり聴いてみると、自分の知恵が格段に上がりそうな気がして、こういう人たちにしっかりと教わると、1 週間ちょっとブラッシュアップできるという気がしたので、この番組を聴いて、私は番組が狙った通りの実感が備わったと思った。

○馬淵さんはマクロ経済に強いアナリスト、一方で渡辺さんは流通アナリストなので結構ミクロな話をよくされていて、そのミクロ・マクロのバランスは、なかなか他の番組では無いと思って、非常にバランスの良い番組だなと感じた。テレビの地上派だと生活者目線や庶民目線みたいな感じで、大体ミクロの話しかしないことが多い。例えば物価が上がると「大騒ぎ」みたいなことを言うが、マクロ経済的に言うと物価がある程度上がらないと健全な経済成長に繋がらないということは常識で、そういう話はあんまり出てこない。テレビだと BS とか CS の経済番組でそういう話は割によく出るが、そこにマクロの経済学者が出てしまうと延々とマクロの話ばかりになっていて、あんまり生活目線と繋がらないケースが多い。そうすると、この 2 人はミクロとマクロ両方のそれぞれの専門家なので、とてもバランスが良いと思った。実際に、給付金をどう扱うかみたいなところでも、普通に 1 人何千円とか配っただけでは、完全に貯蓄に回ってしまう。だったらどこに刺されば、より消費が回るようになるか。結局、経済学というのは、お金を貰えるかどうかよりも、どれだけ貨幣が流通し、財・サービスが環流するかというところが重要なので、だったら「Go To Travel」みたいなことをやった方がいいんじゃないかとか、あるいは馬淵さんは、電気ガスの補助金に回した方がいいんじゃないかとい

う話で、非常に有益な議論が行われていて、面白いと思った。

○後半の AI の話は、これもなかなか痺れる感じがした。シンギュラリティの「ギョられる」話とかも、非常に正鵠を射ている内容だし、フィジカル AI は エッジ AI になるみたいな話をして、これは聴いてる人ほとんど何を言ってるのかわからなかったんじゃないかと思うのですが、割と先端的なテックの世界でよく語られる話です。今 AI は電力がどんどん爆発的に必要になってきていて、それを支えるだけの電力は存在しないんじゃないかという議論がある。だからデータセンターをバンバン作ることによって一瞬、株価が AI 半導体関連ですごく盛り上がっているけど、データセンターを維持するだけの電力がなければバブルになって終わるんじゃないかみたいな議論も行われている。そういうところで、自動運転とかスマホとか、そのデバイスの中だけで AI を完結するようにすれば、いちいちデータセンターを参照しに行かなくて済むようにと、そのデバイスの中だけで完結する AI のことをエッジ AI と言って、その物理空間で AI を使う場合にはフィジカル AI と言うんですが、そのエッジ AI が中心になるんじゃないかみたいな議論がおこなわれて、その辺の先端的な話も、ちゃんと語られていたのが非常に良かった。こういう先端的な話は、なかなかマスメディアである新聞とか地上派では語られない話です。私の新聞記者時代の経験で「分かりやすく書け」ということが物凄い使命として課せられていて、結果的にそうすると、分かりやすくしすぎて、単純化したりとか、分かりにくいところを飛ばしたりとかして、結果、物事を捻じ曲げちゃうケースが少なくなかった。だから今、物凄く世の中が多様化していて、マスの的な情報の流通だけだと、もはやその細かい複雑な分野をカバーしきれない。マスメディアとか大衆社会と言いながらも、それぞれの人はそれぞれの専門性を持っているわけで、コンビニで働いてるスタッフだって、コンビニの流通だったりとか、小売りでのなりようだったりとか、あるいは店内の商品の配置とかに関しては、一家言持っていたりという、あらゆるところに専門性が潜んでいる時代だと考えると、そういうところにきちんと刺さっていくものを少しずつ作っていくというメディアの在り様は、今後の可能性としては有りなんじゃないかと思った。

○この番組自体は、非常に面白い。radiko (タイムフリー) かもしれないが、日曜朝 6 時にわざわざ聴いているということは、別にマス向けじゃなくていいと思う。ニッチな層に絞って、レベルを上げていった方が、聴き応えがあるんじゃないかと思った。特に後半の今井さんの話が面白かったので、そういう意味では前半は圧縮してもいいんじゃないかと思った。AI ミュトスのサンドボックスとかサンドイッチの逸話は、もう有名な話なので、説明の中で、馬淵さんか渡辺さんのどちらかが話してもいいと思った。後半部分をもっと聴きたかったのに切られてしまった感じがあった。「ReHacQ」など、マニアックなことをどんどんやってくる YouTube が最近出ていると思うが、ああいうところは、やはり全然ディレクションをちゃんとしていない。聞き手の能力にかかっている感じがして、なんだか全然ぐちゃぐちゃし

てしまって、聴き難いと思う時がある。一方で TOKYO FM は聞き手の能力も高いし、きちんとディレクションがされてるから、すごく聴きやすいので、同じぐらい高いレベルの話をしてくれてもいいと思う。聴取者をそこまでマスに置く必要はこの番組はないのかなと思った。その意味でもう 1 つは、音楽はやはりどうしてもいるのかというのはいつも思う。FM 局だからというのはわかるが、話が途切れてしまうというのがあって、お二人ともどちらも音楽をすごい愛していて、どうしても楽曲を聞かせたいという熱は無いと感じた。

○スポンサーがたくさん付いていて良いと思う反面、家電量販店のニュースをやった後にエディオンの CM が流れたことは、扱ったから偉いという風に思うのか、ある程度 CM スポンサーだからその話もマイルドにしたと思うのか、なんだかちょっと考えてしまった部分がある。

○馬淵さんは、個人的にはすごく聴きやすいと思うが、今の論客の経済の感じで、割とサプライサイド経済学を淡々と話してく感じで、自分とは多分おそらく違うであろう意見を「そうですね。」と流してしまうのは、品も良いし上手いなと思った。逆にバランスはいいが、渡辺さんの庶民目線とか生活者目線で「自分は背後に庶民を背負ってます。」みたいなところは、少し従来型の提示の仕方だと思ってしまった。渡辺さんで少し気になるのは、自分の意見を強く持つのはいいが、専門家の話をもっと聞いて欲しいというところがあって、今井さんの話は、すごく面白くて、もっと聴きたいのに、途中で渡辺さんが入って結論を言ってしまうみたいなのところが、すごく気になった。そこまですごく話が長くてまとまらない方というわけでもないのに、途中でドーンと入ってくるのは、聞き手としては気になった。しかし、二人のバランスはすごく良い。馬淵さんだけだと、ちょっと専門的すぎて聴いてる方が若干置いてかれてしまうところはあるので、渡辺さんがある程度そこを混ぜ返ししてくれるのは、バランスとしてはすごく良くて、いい番組だと思った。

○全体としては非常に可能性のある番組だと思った。ラジオで音楽とか趣味とかそういうもの以外の経済がテーマでも成り立つ。かつラジオだからこそ、YouTube とかある程度音声メディア的に使ってる人が多そうな時代に、割と狭い層に限定してスポンサーもちゃんとついてるから強い。テレビだと常に生活がどうなっていますかと伺って、視聴者を馬鹿にし続けてるという思いがあるが、生活に結びつけなくても出来るというところは可能性に富んだ示唆を感じてワクワクした。

○フリートークの部分は丁々発止で、すごく上手くやられていると思うが、現稿を読み上げるところは、めちゃくちゃ棒読みになると思った。例えばアナウンサーの方を 1 人立ててあげて、割とこのお二人は自由に喋れるようにしてあげて、原稿読み上げのところはアナウンサーの方が読んであげるようにしてあげたらどうかと思った。特に生 CM のところは酷いなという思いと、でもそこが「味」なのかな

と思いながら聴いた。

○内容で1番印象に残ったのは「ギュられる」という言葉があるというところで、AI に対しての人類の反応としてこういうちょっと面白い造語を作るというこれはもしかすると人間にしかできないというか、AI からすると何のために「ギュられる」という言葉が必要なんだろうとか、シンギュラリティの「ギュ」のところを取るの面白いんだみたいなことは、なかなか人間にしか思いつかないのかなとか思いながら聴いた。

○まず構成がすごくタイトで、1時間弱の番組をすごく練り上げられていると思った。最初のイントロのところで、渡辺さんが、ポテトチップスの白黒パッケージの話をして、プライベート・ブランドが増えていて、それが、どういう風にこれから成功するのか、もしくはそうではないのかというところの話や、馬淵さんは加藤勝信さんを YouTube に招いたという話など、2人の近況や自分の身近な話から入るというところに好感を持った。

○消費税の話では、1%と0%の違いは何かというところにフォーカスしたことがポイントで、1%に落ち着かせることで6000億円が財政から浮く。じゃあ、その6000億円をどうするかというところにタラレバで、これがもしそうなったらどうなるか。馬淵さんは非常にマクロな視点から事業主数が少ないエネルギーに、それを充当していくべきだと言い、渡辺さんは外食の「Go To Eat」ですとか「Go To Travel」というすごく身近にわかるような案を出していて、それが、実現するのかしないのかということを報告する。ニュースを伝えるのではなく、こういう風になったならばその先に実はこういう事象があり、その事象をどう対応するかということで、世の中の動きとか、1人1人の有権者だったりリスナーだったり消費者としてどう思うかということ問いかけるようなテイストがあって、すごく良かった。そこがすごく自然に政策金利が1%に上がった金利ある世界になったことの実質的な変動というか、生活はどう変わるかということで、住宅ローンを組んでいる人たちは70%が変動型になると、それは苦しいよねと。それは円安に置き換えた時にどう考えるかということが、馬淵さんはマクロな視点で、エネルギーとその食料の自給率を上げようと言う、具体的な話はしないけれども、1から2への話題の展開の仕方がある意味、対句的になっているというかパラレルになっている、聴きながら、政策金利が1%になった。それが円安にどういう風になるというのは基本的なことは分かっているのだけど、じゃあそれが世の中のこれからの政策の選択とどういう風に結びつくのか、生活にそれがどう紐付けられるかってことをあんまり考えることがないリスナーには、面白いなと感じた。家電量販店の合従連衡の今の企業産業の組み換えということも短かったけれど面白かったし、なるほどなということを感じた。

○そして生 CM の広告が入ってきたわけですけど、多分これは全員満場一致だと思いますが本当に下手クソです。これは提案ですが、例えばいろいろな通販の仕組みがあって、アナウンサーと電話で繋がっていて、「いや、実はこういうサービスがあるんですけど、どうですか？」という風に言わせて、渡辺さんと馬渕さんが「あ、なるほどですね」っていう、話を受けるような形で、一言二言入れさせることであれば、耐えられると思うんですけども、こういう小芝居じみたことは最も向いてない人たちだと思うし、彼ら彼女らが悪いわけではなくて、制作側がいけないと感じた。ただ、そこから少し話が横に逸れるかもしれないが、最初と最後の提供の原稿読みは馬渕さんがやっているが、それはちょっと面白いなと個人的に思った。明らかにアナウンサーじゃない、番組の中にいる 2 人が、その空間の中でこの提供を読んでもというところが、アナウンサーっぽくなくて割といいと感じた。

○後半のコーナーは、とても良かった。今井さんは AI について 1 番聞きたい、若い企業家でもあり研究者でもある。特にミュトスのサイバーセキュリティに関する話は、聴きやすかった。また、雇用にそれがどういう影響をするか、少し見通していくという部分が、この番組全体を通しての 1 つの特徴で、構成として目指しているところだと思った。エッジ AI 処理のデバイス単独でこの処理できるものと、そうではないオンラインでサーバーに依存するものの違いがどういうものなのか、例えば、水資源やエネルギーと関わらせて理解する。そういうホットなトピックを 1 つ 1 つ出してくるというところが、やり方として面白いなと思った。ただ、今井さんの話の終わらせ方は良くなかった。渡辺さんが突然「時間が来たのでここで終わります。」と言って切るということが、これは多分アナウンサーがいればそれを回収して、ちゃんと終わらせることはできると思うが、今井さんには申し訳ないと感じた。最後に、もう 1 度出てきて、少し話をした所は良かったと思うが、そういうところに気をつけながらも、2 人だけで番組を作っていくこと自体は、相性が良いと思った。馬渕さんの語り方で、所々渡辺さんを補足する仕方がちょっと上から目線というところは愉快だった。それでも仲良く番組を作っていくことが、ラジオショーとしても面白いところだったので、非常に好感を持って聴くことができた。

■様々の視座からご意見ありがとうございます。この番組は、トライアルと言いますか、こういうアナリスト、ジャーナリスト、専門家の方を起用しているところと言うと、やはりどうしてもアナウンサーの方を並走して聴きやすくするというような考えになりがちですが、お二人のなんだか補い合えるようなバランスの良さがあると思っています。ですので、あえてアナウンスのプロでもないし、声質みたいな問題もあるんですけど、お二人がラジオのパーソナリティとしてリスナーに支持を得られるんじゃないかというところを考えました。テレビとか他のメディアでインタビューされる時に、こういう専門家の方々はどうしてもその領域の話だけをして終わっていくという感じのところもあるので、渡辺さんも、現場のコンビニの店長からキャリアが始まって、今でもコンビニに入っていたりすること

もあるようなんですけれども、そういった市井の人々の目線もお持ちですし、人柄的に非常に親しみやすいキャラクターをお持ちなので、お二人でやるというところに、トライアルでやってみたというようなところなんです。音楽はいるのかという話は、前々回の「川島明 そもそもの話」の時にも出たと思うんですが、やはりトークと音楽のベストミックスみたいなところを基本的には番組の制作指針として置いていて、大体 30 分番組とかでも、3 曲ぐらい楽曲とトークを聴きやすく構成していくというのがベースにはあるんですが、この番組に関しては先ほども申し上げたように非常にトライアルな部分もありまして、お二人の良さを出していくというところでは、音楽は少なめで、この 1 時間の中で 3 曲しかかかってないんですけれども、中身の方を重要視して、そういう形の構成にしています。1 曲は JR 東海さんのコーナーで日曜日の朝にぴったりの曲を選ぶというのが企画の内容になってるところもありまして、このような形でやっていますが、選曲の部分は今後スタッフとも日曜の朝にぴったりという割と主観なところで選んでいるところもあるので、もうちょっと精査が必要かなと思っています。インターネットの番組でこういう経済だったりビジネスの番組で割と長尺の番組もだいぶ増えてきて、逆にテレビが非常にコンパクトに尺のない中で伝える一方で、「NewsPicks」「PIVOT」「ReHacQ」とかが、もう本当に 2 時間とか 3 時間という尺で時間に制限なく掘り続けるというような番組が増えて、そういう番組が視聴も再生回数も増えているところがあると思うんですけれども、とはいえ我々は、時間の制限がある中でテレビの本当に一瞬コメンテーターとして数分喋るということではない。もう少し、しっかりと時間を取って、60 分の番組の中でできるバランスのところで、今の形の構成にしているというところなんです。

5. 議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「TOKYO FM Navi」7 月 26 日（日）5:55～6:00 放送
- ② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>